



## 令和元年度（第 61 期生）

### 卒業証書授与式

令和 2 年 3 月 4 日（水）に新潟県立新発田病院附属看護専門校講堂にて、「令和元年度（第 61 期生）卒業式」を執り行いました。

これまでの間、ご指導をいただきました病院関係者をはじめ多くの皆様、ご家族に支えられて、卒業生 39 名が本校を巣立ちました。

卒業式に際し、皆様より、心のこもった祝電をいただきました。

この場をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。

～photo～



卒業生と学校職員のみで執り行いました

学校長より、卒業生一人ひとりに卒業証書が手渡されました。

そして卒業生代表が、「今後も努力を怠らず、目の前の患者さんと向き合っていきたい」と答辞を述べました。

\*以下に、「学校長式辞」「告辞」を掲載します。

令和元年度

新潟県立新癸田病院附属看護専門学校

卒業証書授与式 学校長式辞

卒業生の皆さん 卒業おめでとうございます。

新型感染症に対し 国を挙げて防ごうとする中にある  
ますが 春の息吹を感じる 今日の良い日に 令和元年  
度 新潟県立新癸田病院附属看護専門学校六十一期  
生 三十九名の卒業証書授与式が挙行できますことを  
心から嬉しく思います。

この三年間を支えていただき ご臨席いただく予定であ  
った ご両親様 ご家族様 臨地実習指導者 はじめ 多  
くの関係者の方々に 卒業生の晴れ姿をご覧いただけず  
誠に申し訳ありません。残念に思います一方で 目出度  
く卒業を迎えましたことをご報告し 心からお祝い申し  
上げます。また 急遽 出席をお控え頂きました 新潟  
県病院局長、新癸田市長、新癸田北蒲原医師会長、新  
潟県看護協会会長、同窓会長、新癸田地域振興局健康福

社環境部長はじめ多くのご来賓の皆さまには、ご迷惑をか  
けました。心からお詫び申し上げます。

さて、本校は新癸田に移って、今年九月で六十年にな  
ります。六十一期生の皆さんは、卒業と共に、この長い伝  
統を引き継ぎ、新潟県立新癸田病院附属看護専門学校  
の同窓生となります。入学した頃の顔に比べて、今日の自  
信にあふれた顔を拝見し、私たち教職員は、安心すると  
ともに自分の事のように嬉しく思っています。

卒業生の皆さんにとって、この三年間は充実して過ごし  
た一方で、長く辛かったと思います。医学は複雑で、覚え  
る量は多く、その上、患者さんを前にして看護の技術を  
実践することに困難を感じたと思います。更に、看護の心  
を持って、患者さんに寄り添う余裕はなかったと思います。  
しかし、当初は不可能に思えた実習をこなし、国家試験  
を受けた今、三年前を振り返って、大きな変化を感じて  
いると思います。皆さんは、立派に成長し、看護師に相応  
しくなったことを、私たちは知っています。今日は、仲間を  
はじめ皆様に感謝しながら、大いに自分を褒めてください。

さて、冒頭に申し上げましたように 新型コロナウイルス肺炎が世界中で猛威を振るっています。人類はこれまでスペインかぜやロシアかぜなどの 新型インフルエンザの大流行を経験してきました。そして現在は インフルエンザウイルスに対し ワクチンや抗インフルエンザ薬が開発され乗り越えています。今回の新型感染症も 未知の感染症の間は 標準予防策をはじめ 基本的な感染に対する対応を実践する以外ありません。私たちの学んだ知識や技術は 特効薬に代わり 広く社会貢献できるものですから 実力と資格に大いに自信を持ってください。

ところで 先日の国家試験は落ち着いて受けられましか。幸運にも 今年から試験会場が新潟に設けられました。遠くへ出かけての受験に比べ明らかに有利で 十分に力を発揮できたと思います。私は結果の発表が今から楽しみです。

国家資格に合格すると 九割の人が臨床現場に出ます。現場に出るということは これまで学んだ知識が 実践で役立つ技能に変わることです。現場では 先輩や同僚の技

能の観察を怠りなく 現場で培われたコツや工夫を残らず吸収してください。それに加えて この三年間で 身についた学習習慣を 是非とも維持し 向上心を持って自己研鑽に励み 自己実現してほしいと思います。

皆さんは看護師資格を取る最短コースを歩みました。しかし 資格獲得は最終目標ではなく、人として成長し、社会に貢献するスタートラインと考えてください。これから先 臨床現場において 看護の一番良い先生は 患者さんであると思っています。患者さんを道標にしながら 心安安全を届け 寄り添う過程で 看護の実感を学んでください。

進学して保健師や助産師資格を目指す方も若干名います。健康管理に必要な公衆衛生や人口減対策に貢献できる周産母子の看護を学び 医師からのタスクを受けられるように備えてください。

道は異なっても、ここで学んだ看護の基本を忘れず 新しい生活に入っても いつまでも良き仲間であってください。

これから日進月歩の医療を学び続け、各々が健康に恵

まれ、そしてプロと呼ばれるに相応しい看護師になってくれることを願っています。そして、皆さんが自分の人生を振り返って見た時に「私は天職に巡り合った」と感じてくれることを願っています。

医療者たるもの、自分の健康管理は最も大切です。皆さんの心身の健康が常に保たれ、未来が明るく充実したものであることを信じ、関係各位を含め皆様のご多幸を祈念し、卒業式の式辞といたします。

令和二年三月四日

新潟県立新潟田病院付属看護専門学校

学校長 塚田芳久

## 告辞

県立新発田病院附属看護専門学校の第六十一回卒業証書授与式にあたり、一言お祝いの言葉を申し上げます。

本日、ここに、めでたく卒業証書を手にされた皆さん、ご卒業おめでとうございます。

また、ご家族の皆様方におかれましても、お喜びのことと存じます。心からお祝いを申し上げます。

皆さんは、「豊かな人間性と看護に関する幅広い能力を持った看護職の実践者を養成する」という本校の教育理念の下に、看護師として必要な知識・技術に加え、最も大切な「看護の心」を学んだことと思います。学びの過程では、ご家族や先輩方、教員や臨床指導者などの多くの方々に支えられ、人間としても成長できたことと思います。

この尊い経験は、大きな誇りであり、本日、ここに卒業の日を迎えられた胸中には感慨深いものがあるものと考えております。

きて、皆さんが生まれた一九九〇年代後半は、医療の高度化や専門分化に伴い、看護の分野においても、認定看護師や専門看護師といった資格が構築された時代でした。この二十年では科学技術も進歩を続け、医療機器や新薬の開発、遺伝子治療・再生医療の登場、AI技術やICTの医療分野への進出に加え、看護師による特定行為の実践など、以前では考えられないくらいの変化が起きています。これらの医療現場の変化に対応しなければならぬ一方で、患者と密に接する看護の現場では、人間として最も大切な「やさしさ」や「思いやり」の重要性は不変であります。

看護は、目に見えない患者や家族の思いを捉える観察力、判断力、そして行動へとつなげる実践力、加えて人として向き合うことのできる人間性が備わって、本当の意味での患者とその家族の信頼を得ることが出来るものと考えております。

この三年間で学んだことを忘れずに、看護の



第一線で活躍してほしいと願っております。

昨年、ラグビーのワールドカップが日本で開催されました。日本代表の選手は、約半数が海外生まれということもあり、チームをまとめるために、「OneTEAM（ワンチーム）」をスローガンに揚げ戦ったことをご承知のことと思います。

医療現場においても、医師、看護師、医療技術職員、事務職員等の多くの職種が連携を図り、それぞれの専門性を発揮するとともに、お互いを補完し合う、まさに「OneTEAM（ワンチーム）」によって最善の医療が提供できるものと思います。

特に、看護師は医療チームの中でも、最も長く患者や家族と関わり、不安や悩みを聞くことができる身近な存在です。看護師として専門性を発揮するため、継続して学び自己研鑽を積むこと、多くの人の価値観に触れ豊かな人間性を養うこと、そして経験を積み重ね知識と技術を向上させることを心がけ、チームの要として患者と家族に

寄り添うことのできる看護師へと成長されることを期待しております。

令和という新しい時代がスタートしました。皆さんは令和初の卒業生です。

令和には、人々が自分の人生において、それぞれの花を咲かせていく、夢や希望が花開いていく時代にしたいという意味が込められているそうです。

看護師として積み重ねた自分の力を信じ、より一層の磨きをかけ、自らを大きく輝かせてくれることを心より願っております。

最後になりますが、今日までご指導にあたられた先生方、関係機関・関係施設の方々に敬意を表しますとともに、卒業生の皆さんのご健康とご多幸、そして輝かしい未来を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

令和二年三月四日

新潟県病院事業管理者

岡 俊幸